

経営比較分析表（令和5年度決算）

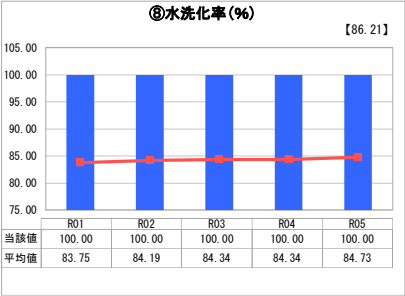
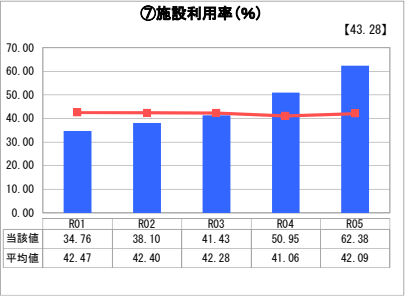
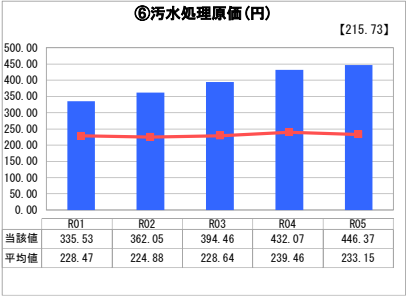
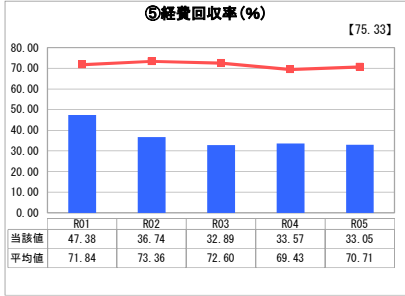
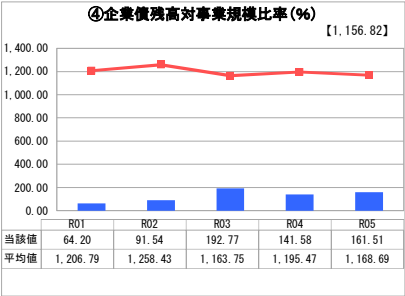
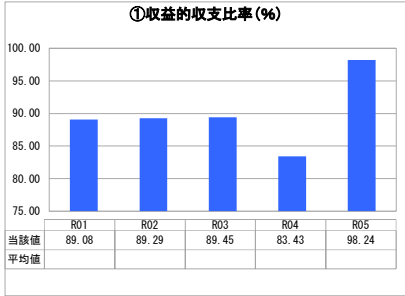
和歌山県 広川町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	2.12	49.91	2,860

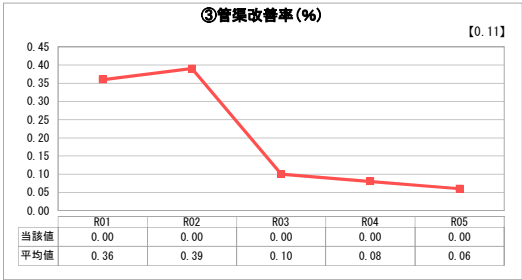
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
6,545	65.35	100.15
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
138	0.08	1,725.00

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率については、100%を下回っていたが、令和5年度は100%近くまで上昇した。これは、地方債の償還が完了し、分母が減少したためである。しかし、依然として単年度の収益的収支が赤字であることに変わりない。本下水道は広湾埋立地区に設置した特定環境保全公共下水道であり、埋立地内の住居92戸と公共施設5か所を対象とした非常に規模の小さい下水道である。従ってスケールメリットが働かず、施設維持管理費を使用料だけでまかなうのは厳しい状況である。また、分譲住宅地の計画人口260人中現在人口138人となっており、当初計画の約5割程度しか埋まっていないことから、料金収入も思うように伸びず、現在は一般会計からの基準外繰出しに頼らざるを得ないと言った状況である。

企業債残高対事業規模比率については、類似団体と比較して相当低い状態であると共に、残高も順調に減っている状況である。

施設利用率は、分譲予定区画の新規加入により、令和5年度に約6割程度となり、類似団体平均を上回っている。水洗化率については、分譲地であり、下水道への接続を必須としているため100%となっている。

2. 老朽化の状況について

平成9年供用開始の下水道であるため、現時点ではまだ管渠の更新は必要ではない状況である。

全体総括

広川町特定環境保全公共下水道については、当初予定していた加入者数が想定通り推移していないこともあり、現在一般会計より基準外の繰入を行って運営している状況である。

経費面では、人件費を計上しておらず、大きく削減できるようなものがない状況である。このため、経営状況を少しでも上向きにするためには、分譲地の早期住居建築を所有者に促すか、最終的には料金改定も見据えた方策を検討していく必要がある。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。